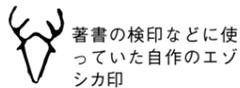


更科源藏(さらしなげんぞう)
●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。
▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。



著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



摩周湖の展望台 中央に更科夫婦と長女 弟子屈・村田徹雄撮影



湯の島から見た弟子屈橋周辺 村田徹雄撮影



伐採した木を炭にする小屋 竹内千代春撮影



開墾されつつある熊牛原野 (「拓(ひら)かれていく森」から) 竹内千代春撮影

『熊牛原野-1931(昭和6)年』

(略)……
何も出来ない高原をあてがった者があつたのだ
ジャガイモを十貫目まいたら
十貫目だけ取れるぞうぞうな
草を刈るとあとが生えないという
……(略)
実地にはたらくのは、拓殖移住手引
の
地図で見るより骨なのですな
……(略)

1931(昭和6)年にコタンの学校を追われた更科夫婦は、父と兄たちが経営していた熊牛原野の牧場に居候することにします。そこは、和人で初めて更科の父母が農業開拓で弟子屈に入植し、開墾したところだ。
更科が居候したころは、第1次世界大戦後の世界経済恐慌で工場縮小や閉鎖により失業した労働者が、都会の街中にあふれていた。その失業者のはけ口として時の政府は、北海道の国有未開地を開拓させようと移民を送り込んでいたのだ。
この緊急補助移民といわれた人たちが入植した土地の悲惨さを、更科は彫刻家で詩人の高村光太郎に話します。高村光太郎は、その話を「彼は語る」という詩にして発表しました。

こう詠まれたとおり、高台で火山灰土の瘦せた土地と当時の気候だったのです。
更科は1933(昭和8)年に再び屈斜路コタンに戻り、一刀彫りの郷土玩具作りをしたり、自分たちの同人雑誌を印刷するにも都合がいいから翌年には弟子屈市街で印刷屋を始めるなど、慌ただしく暮らし方を変えていました。

更科が印刷屋を始めた年の7月、詩人・尾崎喜八の友人で登山家作家の河田積らが更科を訪れます。
更科夫婦は、河田らと弟子屈市街や摩周湖・屈斜路湖、屈斜路コタンを散策し、弟子屈の駅で次の目的地、大雪山系に向かう彼らを見送ります。旅から帰った河田らは、旅の思い出とお礼に、彼らが撮影した写真を1冊のアルバムにして贈ってくれます。
アルバムには、今回の旅で訪れた山の風景の写真的ほかに、緊急補助移民たちが開墾した直後の熊牛原野や、伐採した木を炭にする小屋、弟子屈橋が掛け替えられない前の橋周辺の街並み、阿寒国立公園に指定される直前の摩周湖の展望台などの写真が収められています。

自然ふれあい行事 参加者募集中!

阿寒国立公園の自然環境を実感してもらうための行事を開催しています。今回は、野生動植物の保護・管理という視点で見つめてもらいます。まずは在来種の植物を守るため、外来種の植物オオハングソウを駆除します。

阿寒国立公園指定80周年記念 「川湯から外来種をなくそう！」

- ▶期日/7月20日(日)
- ▶時間/9時~正午(予定)
- ▶集合場所/川湯EMC
- ▶実施場所/川湯温泉街
- ▶参加料/300円(保険代)
- ※申し込み・問い合わせは電話で受け付けます。ホームページもご覧ください。



昨年の行事の様子



ペケレ山登山を楽しんでみませんか

EMC通信

～川湯の森から～

川湯温泉を中心としたエリアは、日本一の大きさを誇るカルデラ(屈斜路カルデラ)です。カルデラとはスベイン語で「大きな鍋」という意味ですが、その名の通り外輪山と呼ばれる山々に囲まれています。車でアクセスできる摩周湖第1展望台や美幌峠、小清水峠、藻琴津別峠、登山できる場所としてペケレ山、藻琴山があり、

屈斜路カルデラの一角「ペケレ山登山道」

カルデラを実感するにはとてもいいエリアと言えます。今回は、その中の「ペケレ山」を紹介します。登山口は、弟子屈から阿寒へ続く阿寒横断道路から、林道を少し車で入ったところにあります。片道約1時間半の行程で、初心者でも挑戦できます。頂上からは眼下に町内や根釧台地が広がり、屈斜路湖や摩周岳なども望めます。遠くには名峰斜里岳や雄阿寒岳、雌阿寒岳、阿寒富士など、360度のパノラマが広がっています。
初夏は虫も比較的少ないですが、ささやぶの中に登山道があるため、夕二には注意が必要です。当センターのホームページでも情報を掲載していますし、来館時に最新の情報を入手することもできます。万全な準備で、登山を楽しんでください!

川湯エコミュージアムセンター(EMC) ☎ 483-4100

URL http://www6.marimo.or.jp/k_emc/ 7月8:00~17:00開館(無休)



図書館だより

中央2丁目4番1号

☎ (よいほんいろいろ) 482-1616

★古雑誌をお譲りします

保存期間が過ぎた雑誌を提供します。図書館では、定期購読している雑誌の保存期間を3年間としていきます。3年を経過したものは処分となりますので、今回は2011(平成23)年6月号までの雑誌が対象です。先着順とし、なくなり次第終了とします。
※お一人3冊までを目安にお選びください。
※取り置きのご希望には、お心えできませんので、ご了承ください。
▼提供期間/7月1日(火)から対象の雑誌がなくなるまで。
▼場所/図書館内・特集展示コーナー



▼今月の休館日/7日(月)・14日(月)・21日(月)・28日(月)

新刊案内

- 「落書きに歴史をよむ」 三上 喜孝/著
 - 「北海道登山口情報350」 全国登山口調査会/編
 - 「申し訳ない、御社をつぶしたのは私です。」 カレン・フェラン/著
 - 「昆虫学ってなに？」 日高 敏隆/著
 - 「東北・北海道の美酒」 葉石かおり/著
 - 「雑木の庭&家づくり」 成美堂出版部/編
 - 「原色」木材加工面がわかる樹種事典」 河村寿昌・西川栄明/著
 - 「団地でくらしよう！」 長野まゆみ/著
 - 「逆流 越境捜査4」 笹本 稜平/著
 - 「はのはのはなし」 山本 孝/絵
- たくさんのお待ちはお待ちしています!

ゆるエコ

田村 記久恵/著

エコの達人主婦・アズマカナコさんから学ぶ楽しい節約生活術。ごみになるか、役に立つかは、アイデアと工夫次第です。目からウロコの掃除・洗濯術、暑さ・寒さ対策、プランター菜園や中古の魅力など、暮らしのヒント満載です!

おすすめの新聞